



別府大分毎日マラソン大会事務局 ☎558-1999



毎日新聞社提供

大分が誇る日本三大クロシツクレース

別府大分毎日マラソン大会

BESSHO-OITA MAINICHI MARATHON

びわ湖毎日マラソン大会、福岡国際マラソン選手権大会とともに「日本三大クラシツクレース」と呼ばれる別府大分毎日マラソン大会。今年で69回を数える歴史あるこの大会と大分の新旧マラソンシーンに注目しました。

別府大分毎日マラソン大会（以降別大）は、時代背景に翻弄された「幻のオリンピック代表」と呼ばれ、オリンピック代表候補のコーチを務めた故・池中康雄氏（中津市出身、以降人名敬称略）の「オリンピックへの道を開くためにも地元大分で全国大会を」との提唱により、1952年、35kmのコースで第1回を開催（第2回以降フルマラソン）。高低差の少ない別大国道（国道10号）の平坦なコースは「記録の別大」と呼ばれるほど、日本新・世界新と数々の記録をマラソンシーンに刻んできました。

第12回では寺澤徹がエチオピアのアベベが持つ記録を0秒4上回る2時間15分15秒8と、当時の世

界最高記録を更新。第16回ではメキシコオリンピック銀の君原健二が国内最高記録を塗り替え、第27回では白杵市出身の宗茂が日本初の10分の壁を突破。第40回にはバルセロナオリンピック銀の森下広一が2時間8分53秒で初マラソン記録を大幅に短縮。以降も数々のオリンピック代表を輩出し、「若手の登竜門」と認知されるに至っています。

回を重ねることに先鋭化していくびわ湖毎日・福岡国際とは対比的に、2011年から参加資格を3時間30分に緩和。女子選手にも門戸を開き、市民ランナーにも手が届く大会として、4000人を超える選手がエントリーしています。



©SoftBank HAWKS

日本代表としての責任感
チームに少しでも貢献したい

財前 甲斐選手はこれまでたくさん国際大会に出場されていますが、その雰囲気というのはいかがでしょうか。

甲斐 プレッシュャーはありますね。日本代表としてプレーするのは責任を感じますし、その分うれしさももちろんありますし。世界1位になった時は達成感ももちろんありました。そう

いった中で自分がやれているのは幸せにも感じますね。

財前 今年はいよいよ東京2020オリンピック。野球も種目として復活しました。出たいですね。

甲斐 もちろん！出たいですね。選んでいただけるといいなと思います。金メダルは何としても獲りたい気持ちですし、少しでもチームに貢献できればと思いますね。

財前 大分からも吉報を楽しみに待っていたと思います。

市長 応援に行きましょう！
甲斐 言いましたね（笑）ぜひお願いします！

財前 そんな話を聞いていると、東京2020オリンピック・パラリンピックが楽しみになってきます。大分市としてはどんな取り組みをされているのでしょうか。

市長 事前キャンプ誘致をずっとやってきました。決まるところですと、フィジールのラグビー、フェンシングの日本代表、ポルトガルの陸上競技、スイスのパラ陸上競技のチームが大分で事前キャンプをするという事です。選手の皆さんが万全の準備ができて良いパフォーマンスができるようにお迎えしたいなと思っています。

財前 最後に甲斐選手から、大分の皆さんにメッセージをお願いします。

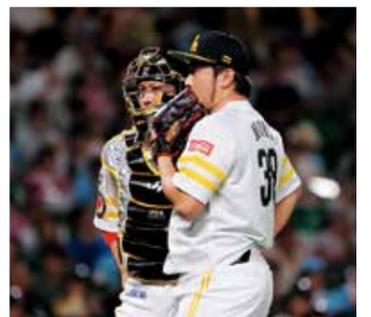
甲斐 2019年は日本一になることができたのも、ファンの皆さんの声援のおかげです。また2020年もリーグ優勝、そして日本一になれるように一生懸命頑張るので、引き続きご声援をよろしく願います。

※1月1日放送「大分市テレビ広報番組」要旨

この対談の様子は、大分市公式動画チャンネル「いいやん！大分」でご覧いただけます。



▲こちらからご覧ください。



©SoftBank HAWKS